

# ENVI5.5 SP 1 リリースノート

## Note

最新の情報に関しては、下記のリンクを参照してください。

<http://www.harrisgeospatial.com/SoftwareTechnology/ENVI.aspx>

これらリリースノートは次の項目に分かれています。

- ENVI5.5 SP 1 のサポートプラットフォーム
- ENVI5.5 SP 1 の新機能
- ENVI5.5 SP 1 で修正された問題

## ENVI5.5 SP 1 のサポートプラットフォーム

ENVI5.5 SP 1 のサポートプラットフォームを以下の表に示します。

これからソフトウェアをインストールするマシンが以下の条件を満たすかどうか、必ずご確認ください。また、ライセンス認証にはネットワークカード (NIC もしくは Ethernet) が必要になります。

プラットフォーム	ハードウェア	オペレーティングシステム	サポートバージョン <sup>b</sup>
Windows	Intel / AMD 64-bit <sup>a</sup>	Windows	8, 10
Macintosh	Intel 64-bit	OS X	10.11, 10.12 <sup>c</sup>
UNIX	Intel / AMD 64-bit	Linux	Kernel 2.6.32 glibc 2.12

<sup>a</sup>: ENVI5.3 より Windows は 64-bit OS のみのサポートとなります。32bit モードの ENVI を起動する場合は、「ENVI5.5/IDL8.7 インストールガイド」の「Windows 版 ENVI / IDL の起動方法」をご確認ください。

**b:** サポートバージョン中の記載は、ENVI / IDL の構築・テスト環境を示しています。弊社による公式のサポートは、表に記載されたインストール環境に対して適用されません。なお、記載のバージョンとバイナリ互換のある環境（例えば、UNIX の Kernel 3.10.0 など）であれば ENVI / IDL のインストールおよび実行が可能であることを確認しております。

**c:** Macintosh 版のインストールには、Apple X11 X-window マネージャが必要となります。X11 がインストールされていない場合は、XQuartz よりインストールを行ってください。XQuartz2.7.11 にて動作確認されています。

#### 推奨環境：

本製品を快適に利用するために 1GB 以上のメモリを持つグラフィックボードの搭載と、バージョン 2.0 以降の OpenGL のマシン環境を推奨します。また、搭載されているグラフィックボードのドライバを最新にアップデートすることを推奨します。ヘルプシステムは HTML5 対応ブラウザを必要とします。

## ライセンスサーバーのサポートプラットフォーム

本製品をフローティングのライセンスのサーバー機として使用する場合には、ライセンスサーバー（Flexnet License Server）を使用します。そのライセンスサーバーのサポートプラットフォームを以下の表に示します。なお、MacOS はフローティングサーバーとしては動作いたしません。

ライセンスサーバーをインストールするマシンが以下の条件を満たすかどうか、必ずご確認ください。また、フローティングライセンスに関しても、ライセンス認証にはネットワークカード（NIC もしくは Ethernet）を介した、インターネット接続が必要となります。

プラットフォーム	CPU アーキテクチャ	サポートバージョン
Windows 64bit	x86-64	Windows Server 2008, 2012 Windows 8, 10
Linux	x86-64	Cent OS 6.x Cent OS 7.x Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.x Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.x Ubuntu 16

また、現行の Flexnet License Server 2017.08 の動作に要求される最小のマシンスペックを以下の表に示します。インストールを行うマシンが以下の性能を満たしているか、必ずご確認ください。

ハードウェア	最小スペック
DISK	500MB
RAM	4 GB
CPU	2GHz – 2 Cores

#### その他：

搭載されているグラフィックボードのドライバを最新にアップデートすることを推奨します。各製品の Help は HTML5 対応ブラウザを必要とします。

## ENVI5.5 SP 1 の新機能

ENVI5.5 SP 1 から以下の機能が新たに追加されました。

- サポートするデータタイプの追加
  - AlSat-1B
  - FormoSat-5
  - MIE4NITF
  - PlanetScope reflectance imagery
  - Sentinel-2 メタデータ (アップデート)
- ArcGIS との連携：サポートデータタイプの追加
- 陰影地形図ツール
- コンターライン
- OpenStreetMap®ベクタのダウンロード
- ENVI Modeler のアップデート
- RPC オルソ補正のアップデート
- ベクタシンボルの保存
- チュートリアル追加
- ENVITask とルーチンの追加

詳細は以下のページを参照ください。

[https://www.harrisgeospatial.com/docs/using\\_envi\\_WhatsNew.html](https://www.harrisgeospatial.com/docs/using_envi_WhatsNew.html)

## ENVI5.5 SP 1 で修正された問題

ID	解 説
ENVI-71001	Export View To > Image を使用すると大きなファイルでアーチファクトが発生した。
ENVI-71356	入力ファイルに XSTART / YSTART 値がヘッダーに定義されていると、自動スペクトルアワーグラスの処理が進まなかった。
ENVI-71389	ENVITasks がマスクされた入力ファイルを扱う場合、説明の文書が必要だった。
ENVI-71394	SPEAR メタデータビューアは、NITF 2.0 / 2.1 ファイルを読むときにエラーメッセージを出力した。
ENVI-71396	ENVI Py のヘルプトピックには、ArcGIS Pro でツールボックスを作成する際のアクセス許可について記載していなかった。
ENVI-71397	TOPO_DOIT ルーチンは、Topographic Modeling ツールおよび ENVITopographicModelingTask とは異なる結果を出力した。
ENVI-71398	変換差植生指数 (TDVI) は不正確な方程式を実装し、間違って文書化されていた。
ENVI-71405	「メタデータの編集」ダイアログには、別のイメージから RPC をインポートする機能が存在しなかった。
ENVI-71411	Dice Raster by Distance ツールの出力ファイル名に、間違った列/行の順序が含まれていた。
ENVI-71413	ASCII x、y、z 形式にバンドを保存すると、マップ座標が正しくなかった。
ENVI-71418	ENVIColorSliceClassificationTask のトピックでは、カラーテーブルの使用についてより明確にする必要があった。
ENVI-71558	PCI (.pix) 形式の空間参照がないイメージをエクスポートすると、無効なピクセルサイズに関するエラーメッセージが表示された。